

2020年8月7日 第334号

憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター
〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)
http://www.kyodo-center.jp mail: move@zenroren.gr.jp

安倍9条改憲NO! ウィメンズアクション 『#臨時国会の開催を求めます』 被爆75年 核兵器なくそう 「いのちを守れ」と声あげよう

安倍9条改憲NO! ウィメンズアクションは8月6日夜、有楽町・イトシア前でスタンディング宣伝を行い、25人が参加しました。広島・長崎に原爆が投下されてから75年。安倍改憲を許さず、平和への願いを一層深める行動となりました。日本共産党の紙智子参議院議員が駆けつけ、スピーチしました。

新婦人の米山淳子会長は「私は広島に生まれ育って、核兵器を一日も早くなくそうと活動していきたく。日本は核兵器禁止条約に背をむけている。あと10カ国が参加すれば核兵器禁止条約が発効する。被爆75年、核兵器廃絶にむけ、新たな一歩を踏み出そう」と呼びかけました。

全労連の長尾ゆり女性部長は「『国会開け、医療などコロナ対策を話しあえ』と、おかしいと思うことに声をあげてきた。75年前、8月6日に広島、9日に長崎に原爆が投下された。多くの被爆者は、『私たちが最後の被爆者に』と、運動している。核兵器禁止条約が発効すれば、核保有国の手を縛ることになる。アメリカの武器を言い値で買う安倍首相はどここの国の首相か。平和をリードする国にならなければならない。いのちより大事なものはない。武器に税金を使うべきではない。『#臨時国会の開催を求めます』とツイートしてほしい。声をあげることで、いのちを守り、政治を変えることにつながる」と呼びかけました。



●東京・日野

「日野に保健所を」キャンペーン学習会 「全ての人のいのちを平等に守る」その中心が保健所



8月5日、「日野に保健所を」キャンペーンのスタート学習会に44人が参加。コロナ感染のなか、参加を自粛された方、仕事などで来れなかった方も多数おられたと思います。

呼びかけ人の窪田之喜さんのあいさつにつづき、都議補選でタッグを組んでご奮闘された大河原まさ子立憲民主党衆議院議員と清水とし子都議予定候補が連帯あいさつ。お二人とも、最後まで参加してくれました。

池上洋通さんが「公衆衛生を担う保健所の役割と主権者としての市民の運動」と題して約100分にわたり講演しました。池上さんは、公衆衛生の役割を歴史的、理論的に明らかにし、実際の保

健所と保健師の仕事が多様な分野にわたっていることを示して、公衆衛生が「全ての人のいのちを平等に守る」仕事であり、その中心機関が保健所であることを解明しました。質疑の後、呼びかけ人の木村真実弁護士が閉会あいさつを行い、最後に司会を務めた磯崎四郎革新懇事務局長（呼びかけ人）が「キャンペーンに多くの市民や団体、政党に参加してもらい、来年の都議選に向けて多彩な運動を展開しましょう」と呼びかけました。

* 8月19日(水) 総がかり行動実行委員会「19日行動」18時30分～ 国会議員会館前